

長柄神社（邑楽郡邑楽町）

ながらじんじゃ

ここが長柄神社/出雲神話の事代主命を祭神とする上野国神名帳「邑楽郡一ノ宮」の「正一位長柄明神」



鳥居の隣には猿田彦大神と恵比寿神が祀られている



事代主命の子孫が大和国葛上郡吐田郷長柄（現 奈良県御所市長柄）に移り住み、氏神として式内長柄明神を祀ったと云う



その一族の長柄氏が1400年前の飛鳥時代に利根川北岸の邑楽郡西南部に長柄郷を開発し、氏神の長柄明神を祭り草創したのがこの長柄神社らしい



前方に社殿が見える



新田義貞の側近の武将が、新田義貞に応じて鎌倉攻めの際にここに参拝し、武運を祈願したそうだ



拝殿

 [video](#)



「長柄神社」と記された神額



事代主命を祭神とする神社には、御所市の大和国葛上郡長柄神社や八尾市の河内国若江郡長柄神社があり、古代の葛城氏との関係も指摘される

長柄神社由緒

当社は千四百年前、大和やまとから邑楽郡いづまに来て
長柄郷ながへを開発した長柄氏が始祖事代主命ことしろあしりうじを
祭神として草創しました。上野国神明帳に
「正一位長柄明神」と記された邑楽郡一宮が
この社です。元慶五年881に藤原長良公ながらうを
合祀し、近郷の首社として崇敬され、
元弘三年1333五月、篠塚城主篠塚重広しんが（伊賀守が
新田義貞志じて鎌倉攻めに参陣の時、
この社頭に武運を祈願しました。江戸時代には
二町三反五畝せの広大な神域にうつそうと古木
大樹の繁る中に彫刻の粹すいをこらした壮麗な社殿が
造営され、明治五年十一月、石打・藤川
秋妻・上小泉・下小泉・吉田・篠塚七カ村の
郷社に列せられました。その森巖しんげんなたたすまいは
終戦まで保たもたれました。現存する樹令四百年の
江戸彼岸桜の名木が昔を物語っています

本殿の彫刻/安永8年（1779年）の棟札が残されており、本殿は邑楽町指定重要文化財となっているそうだ

[video](#)



その標柱が立つ

 [video](#)



さて、こちらは「長柄神社の桜 エドヒガン」として邑楽町指定天然記念物となっている樹齢400年のエドヒガンザクラ



その標柱と説明板があった



町指定天然記念物

長柄神社の桜 エドヒガン

長柄神社の桜エドヒガンは、樹齢四百年といわれています。樹高は十五メートル。幹は二本に分かれ、その幹周りは片方が二・二メートル、もう一方が二・二五メートルです。枝張りは東西十三・八メートル、南北十五・八メートルにもおよびます。

この桜は、春の彼岸のころ、葉の出る前に、ソメイヨシノよりも色の濃い、小さな花をたくさん咲かせます。

邑楽郡の一の宮である長柄神社の杜に守られ、長い年月を生きぬいてきたエドヒガン。人たちの喜びや悲しみを幾度となく見つめ、私たちの心の支えとなってきました。本殿の彫刻とともに、町の文化財として、大切に後世に伝えていきたいものです。

平成十一年一月

邑楽町教育委員会

参考ホームページ

<https://tamalotus2.exblog.jp/26079493/>

<http://chrono2016.blog.fc2.com/blog-entry-497.html>

